



## 「ヨーロッパ」に留学すること



人文学部社会科学科 地域研究・社会学コース 4年 平野春香

3月からブルガリアのソフィア大学に留学しています。半年が経った今の生活とブルガリアの様子をお伝えします。



授業は、学びたかったフェミニズムのプログラムがあり、月曜から土曜まで毎日違った授業が開講されていたのでそれを履修しました。

時間は最短で1時間半、長くて4時間のものまであり、バラバラです。全て英語で開講されていたので毎日がリスニングの練習でした。その結果、英語の文法やWritingに関する授業をとれませんでした。英語そのものの授業は週に1回しかありません。英語は、独力で勉強するしかありませんでした。

生活は、街の看板やレストランのメニュー、周囲の話す言葉は、当然ですが、すべてブルガリア語。1989年まで共産主義国家でした。第二言語がロシア語だったため、ブルガリア人のほとんど、特に私たちより上の世代は、英語が話せません。こちらに来る前にせめてブルガリアのキリル文字を覚えておくべきだったと反省しました。今では文字は読めますし、単語も少しは分かるようになりました。

休日は旅行のほか日本大使館からオファーで日本文化のイベントに参加しています。ヨーロッパやその周辺の旅行が日本の国内旅行より安く魅力的です。イースターにスペインやトルコを訪問しました。

物価がとても安くて暮らしやすいのが魅力的です。寮は2人1部屋で月80レヴァ（約5000円、水道光熱費込）。大学から月450レヴァ（約28000円）の返還不要の奨学金もいただけます。上の写真はよく行くスーパーの写真です。





ブルガリアに来て改めて思うことは、「ヨーロッパ」に留学するというのは「英語が第2外国語」ということです。こちらに来る前は、「ヨーロッパの国だから皆、英語が使えるでしょ！」と思い込んでいました。それは甘い考えでした。

イギリス以外の国は、公用語が英語以外の母国語であることがほとんどで、これはなにもブルガリアに限った話ではあり

りません。

フランスやドイツ、スペインに行っても標識はその国の言葉だし、現地の人にも母国語を話します。ただ、ブルガリアの場合はキリル文字で馴染みが薄く、歴史的な要因からも西欧諸国より英語の出来る人が少ないのです。

はじめは大変ですが、共産主義時代の建物やその温かい国民性を感じられるなど、日本で暮らしていたら体験できないようなことがいっぱいあります。



ただ一つ言いたいことは、当然のことですが、「英語の勉強のためだけにブルガリアに来ないでください」ということです。

英語だけを勉強したいなら米国や他の英語圏の国に行った方がもちろんいいです。英語プラス何か他のこと、例えば、私はフェミニズムでしたが、他にはブルガリア語、共産主義時代の歴史、日本語教育などを学びたい！、と思うなら、お勧めします。



夏休みには欧州各国を旅行して様々な経験を積み、見聞を広めたいと考えています。次の学期はブルガリア語初級の授業や歴史の授業などをもって前学期同様充実した日々を送りたいです。では、皆さん、ごきげんよう。

